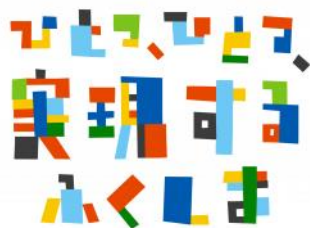
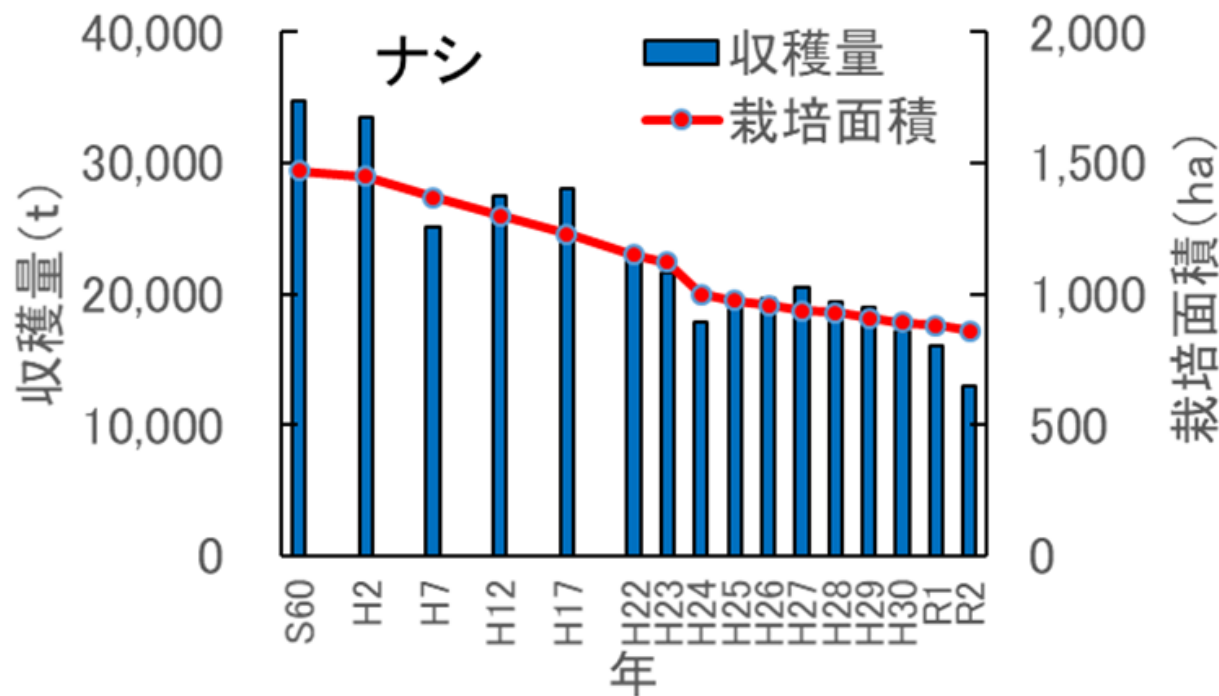


# ナシ栽培の省力技術等について

福島県農業総合センター果樹研究所栽培科



# 本県におけるナシ栽培の現状と問題点



本県は令和2年現在で全国3位の栽培面積(859ha)を有している。しかし、生産者の高齢化や担い手不足等により、栽培面積及び生産量は年々減少している。また、**園地の老朽化による生産性の低下**も生産量減少の一因となっている。

# 本県におけるナシ栽培の課題解決のためには・・・

園地の若返りを図るため、**新植・改植による早期成園化や省力化を可能とする栽培技術**の導入が必要である。

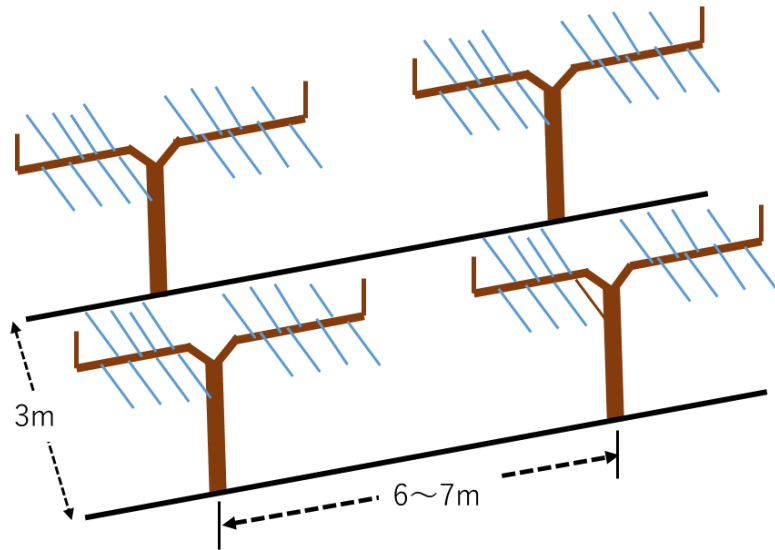


その栽培技術とは・・・

新一文字型樹形、ジョイント型樹形  
ジョイントV字トレリス栽培

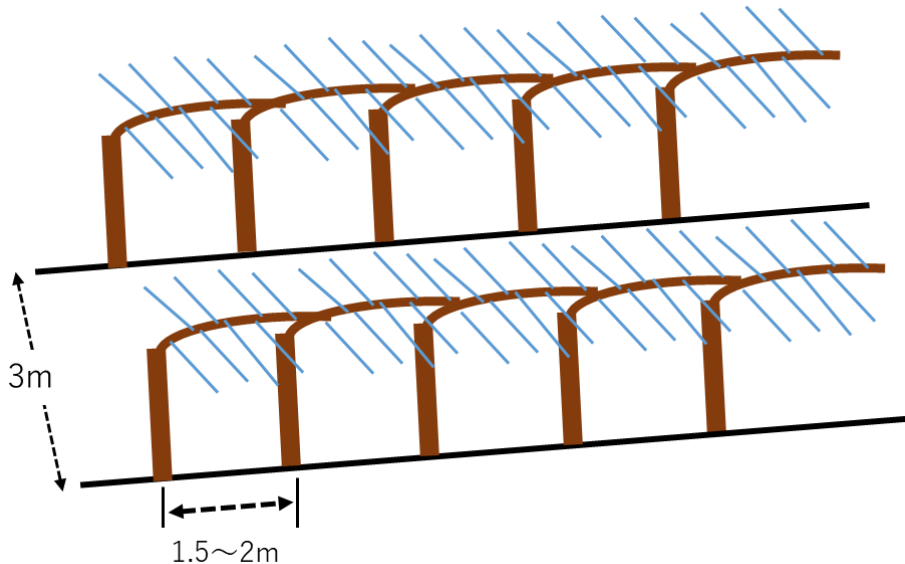
# 新一文字型樹形とは

- 棚下15～20cmの主枝誘引線に沿って2本の主枝を一文字状（直線状）に整枝し、主枝の両側に側枝を肋骨状に配置した樹形。



# ジョイント型樹形とは

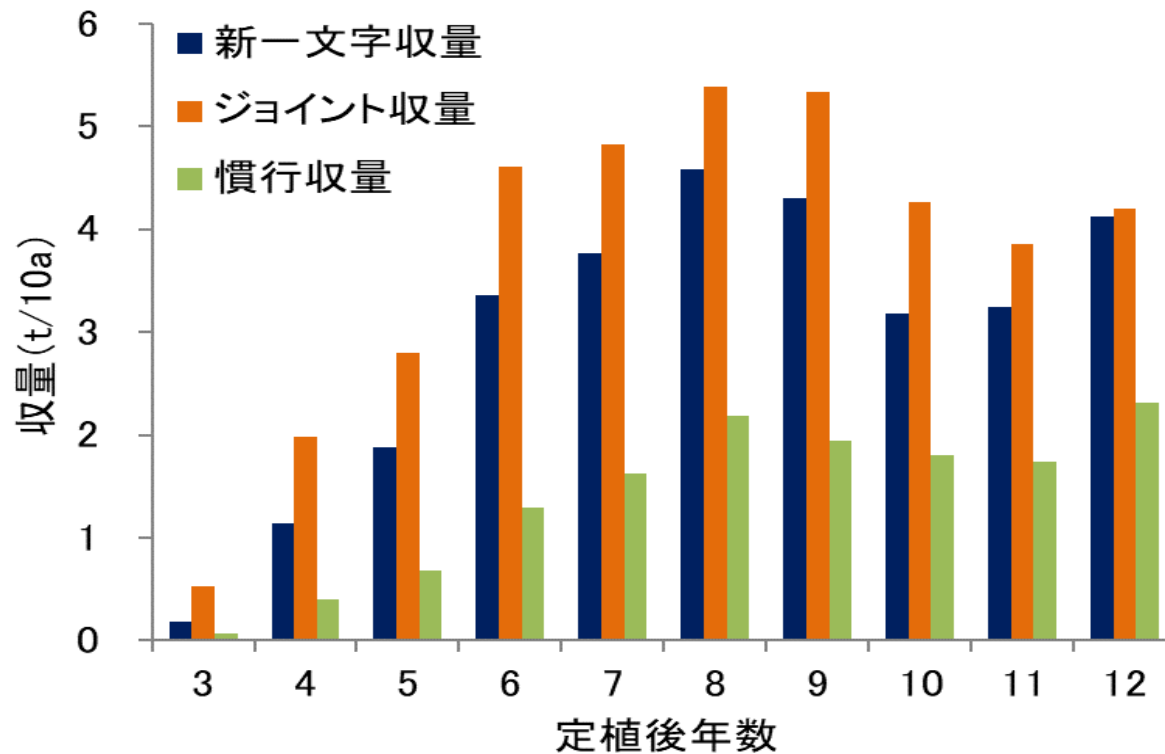
- 植栽した樹の主枝の先端部を隣接樹の主幹基部へ接ぎ木により連結し、直線状の集合樹に仕立てる樹形。



※ナシのジョイント型樹形は神奈川県が開発した技術であり、特許を取得しているため、取り組む際は、特許使用料金を支払う必要がある。

# 新一文字型樹形・ジョイント型樹形(平棚)の 「幸水」における10a当たり収量の推移

新一文字型樹形及びジョイント型樹形は定植後5～7年目で成園化した  
が、慣行樹形（4本主枝）は定植後12年目で、まだ成園に達していない。

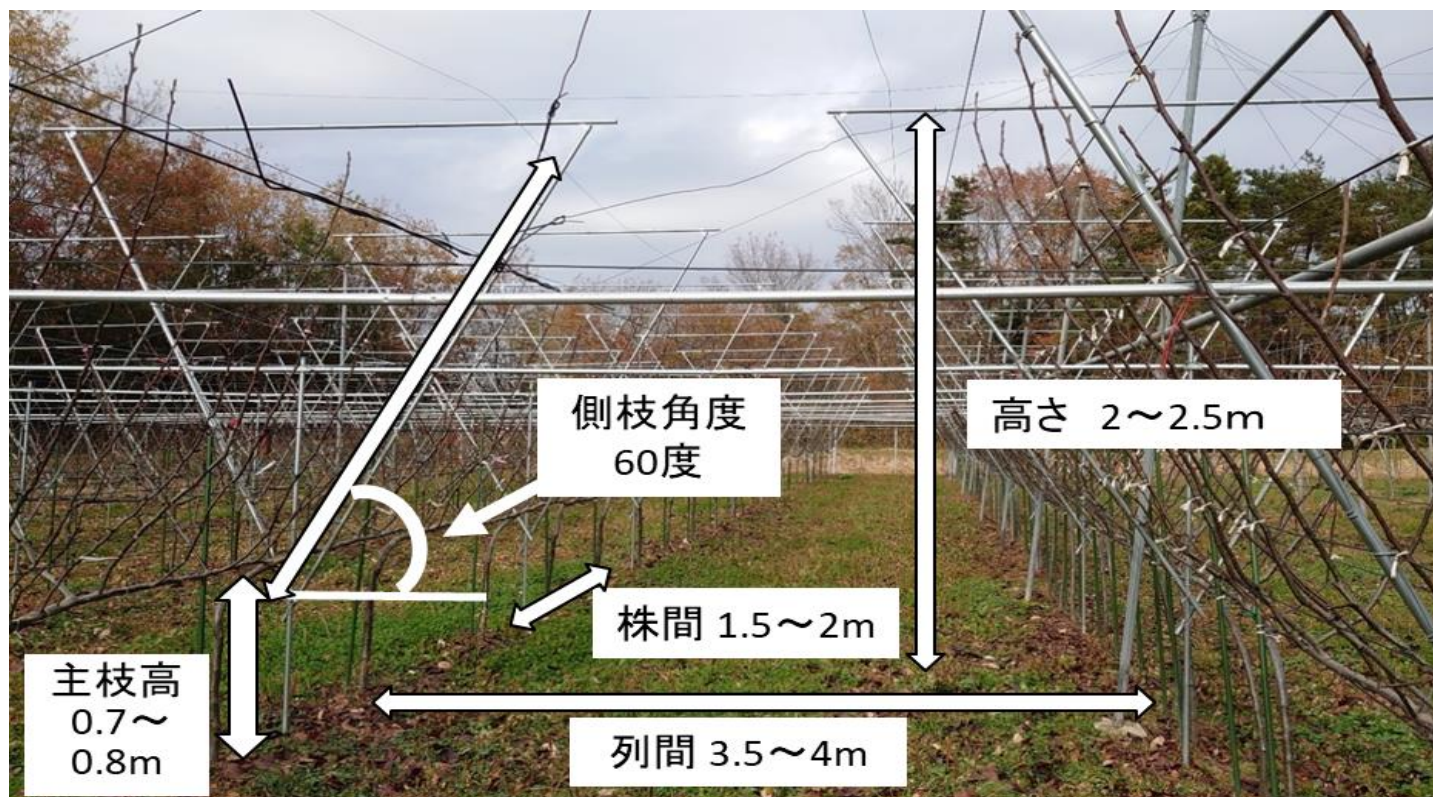


注) 10a当たりの植栽本数と1樹当たりの収量から試算した。  
(新一文字：56本、ジョイント：166本、慣行：18本)



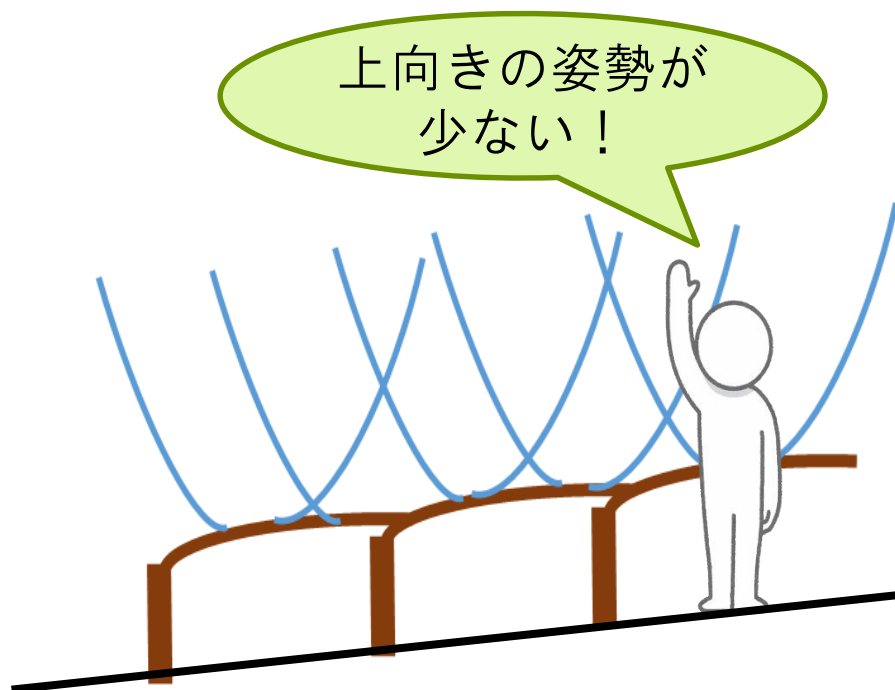
# ジョイントV字トレリス栽培とは

- ジョイント樹形の1種であり、地上70～80cmに主枝を配置し、側枝を水平に対して60度のトレリスに斜立誘引する樹形。



# ジョイントV字トレリス栽培とは

- 平棚のジョイント栽培に比べ、長大な大苗育成を必要とせず、作業姿勢の改善や省力化が期待できる。





# 定植 1～2 年目（「甘太」 1 年生苗）



ジョイント接ぎ木直後



定植 1 年目



定植 2 年目の開花期



初収穫



# 定植3年目（「甘太」1年生苗）



開花期



新梢伸長期

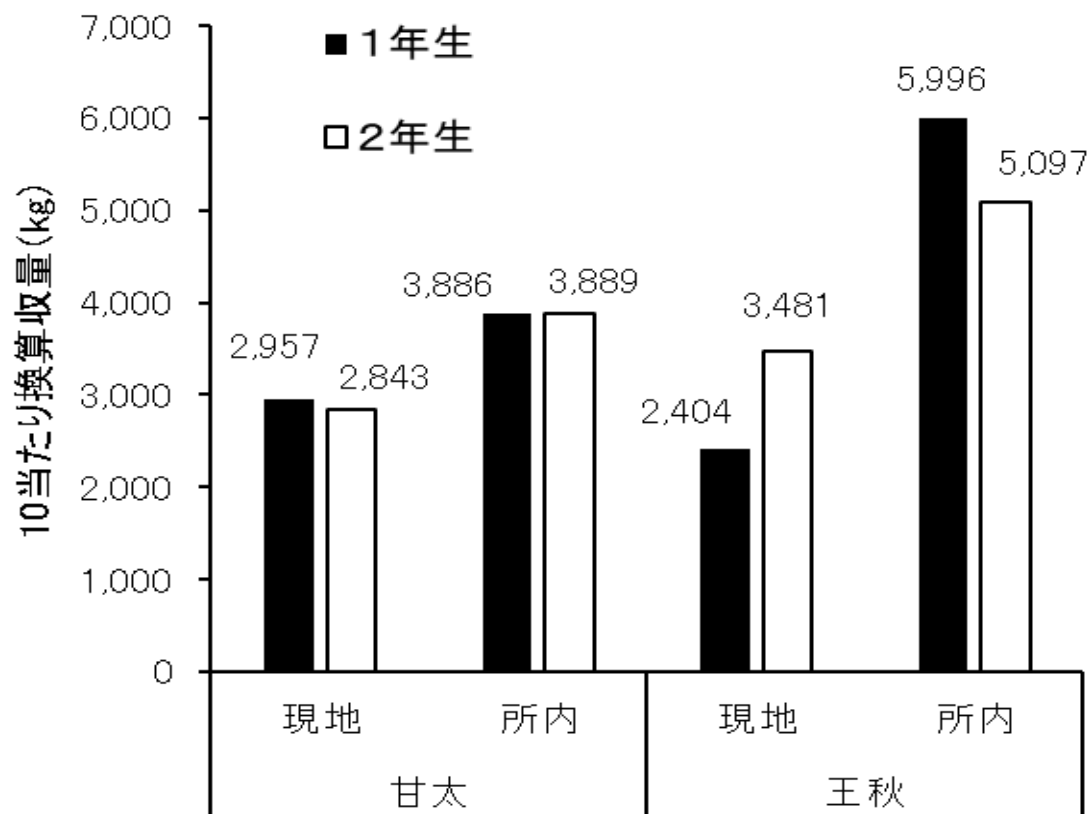


収穫期



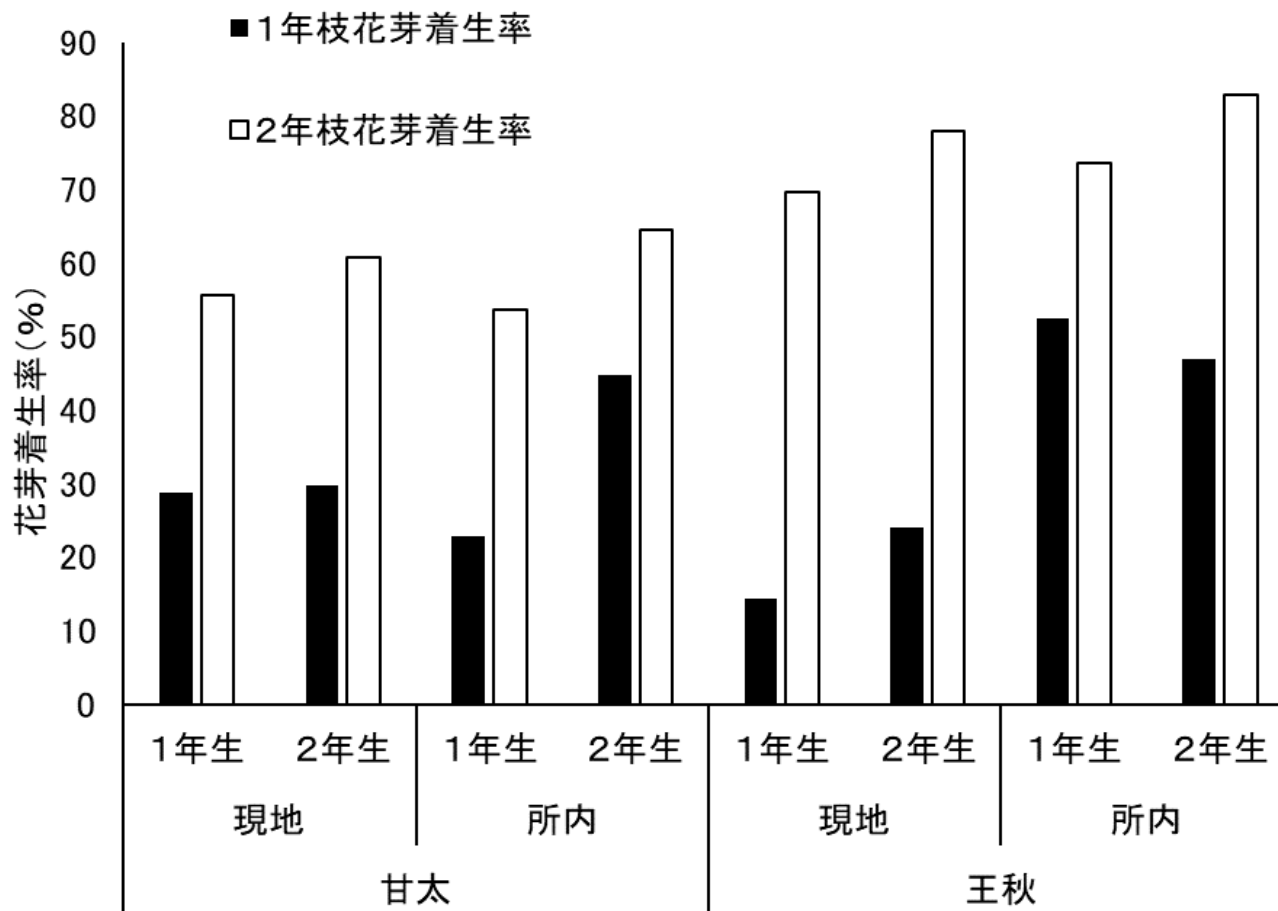
収穫期の果実

# 「甘太」「王秋」定植3年目の 10a当たりの収量



注) 10a当たりの植栽本数と1樹当たりの収量から試算した。  
(甘太: 207~408本、王秋: 158~314本)

# 「甘太」「王秋」の定植3年目の 花芽着生率



# まとめ

	メリット	デメリット	10a当たりの苗木の必要本数
新一文字型樹形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業効率が良い</li> <li>・6～7年目で成園化が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの苗木が必要</li> </ul>	48～56本
ジョイント型樹形(平棚)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業効率が良い</li> <li>・5～6年目で成園化が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大苗が必要</li> <li>・多くの苗木が必要</li> </ul>	167～222本
ジョイントV字トレリス栽培	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業効率が良い</li> <li>・作業姿勢の改善が可能</li> <li>・平棚のジョイント樹形に比べ、長大な大苗育成が不要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・V字専用棚が必要</li> <li>・大苗が必要</li> <li>・多くの苗木が必要</li> </ul>	125～190本